

# 安全データシート

クロロファスト



## 1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : クロロファスト  
Cat. No. : 40100053, 40100054, 40100055  
化学物質を特定する他の方法 : 情報なし。  
容器サイズ : 1 kg, 7.5 kg, 25 kg  
製品タイプ : 粉末。

### 推奨用途及び使用上の制限

製品の使用 : 材料観察試料の包埋用  
適応エリア : 業務用。

供給者の会社名称、住所及び電話番号 : ストルアス社 (Struers ApS)  
〒141-0022  
東京都品川区東五反田3-14-13 高輪ミュージビル1F  
電話: 03-5488-6207  
Fax 番号 03-5793-1081

本SDS担当者の電子メールアドレス : info@struers.co.jp

緊急連絡電話番号(受付時間) : 公益財団法人 日本中毒情報センター (JPIC): 大阪中毒110番(365日 24時間対応) 072-727-2499, つくば中毒110番(365日 9時~21時対応) 029-852-9999.  
03-5488-6207 (株式会社ストルアス)

## 2. 危険有害性の要約

GHS 分類 : H402 水生環境有害性 短期(急性) - 区分3

### GHS ラベル要素

注意喚起語 : 注意喚起語なし。

危険有害性情報 : H402 - 水生生物に有害

### 注意書き

概要 : 該当しない

安全対策 : P273 - 環境への放出を避けること。

応急措置 : 該当しない

保管 : 該当しない

廃棄 : P501 - 内容物及び容器を市町村条例、都道府県条例、国内法令及び国際条約の規定に従って廃棄すること。

その他の危険有害性 : 空気中で可燃性粉塵濃度を形成するおそれがある。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物

化学名又は一般名	含有量(%)	CAS登録番号	官報公示整理番号	
			化審法	安衛法
メタクリル酸メチル	≤10	80-62-6	2-1036	(2)-1036
過酸化ジベンゾイル	≤10	94-36-0	3-1349	情報なし。

### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 皮膚に付着した場合 : 多量の水で、汚染された皮膚を洗浄する。汚染された衣服および靴を脱がせる。症状が現れたら、医師の診断を受ける。
- 眼に入った場合 : すぐに多量の水で、時々上下のまぶたを持ち上げながら眼をすすぐ。コンタクトレンズの有無を確認し、着用している場合にははずす。炎症が生じた場合、医師の診察を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 水で口を洗浄する。物質を飲み込んだ場合、被災者の意識があれば少量の水を飲ませる。医師の指示がない限り、吐かせてはならない。

#### 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

##### 予想される急性健康影響

- 吸入した場合 : 規制の又は勧告されている暴露限界濃度を超える空気浮遊物質に曝露すると、鼻、のど及び肺に炎症を引き起こす原因となることがある。
- 眼に入った場合 : 規制の又は勧告されている暴露限界濃度を超える空気浮遊物質に曝露すると、目に炎症を引き起こす原因となることがある。

##### 過剰にばく露した場合の徴候症状

- 吸入した場合 : 有害症状には以下の症状が含まれる:  
気道刺激性  
咳
- 眼に入った場合 : 有害症状には以下の症状が含まれる:  
刺激  
充血

- 応急処置をする者の保護 : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。
- 医師に対する特別な注意事項 : 症状に対応した対処療法を行うこと。大量に摂取あるいは吸引した場合は、直ちに毒物治療の専門医に連絡する。

### 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 粉末化学消火剤を使用すること。  
火災発生時には、ウォータースプレー、泡沫、粉末化学消火剤あるいは二酸化炭素を使用する。
- 使ってはならない消火剤 : ウォータージェットを使用してはならない。
- 特有の危険有害性 : 分散すると、粉塵と空気の爆発性混合物を形成する可能性がある。本製品は水生生物に対して有害である。本物質によって汚染された消火用水は封じ込める必要があり、水路、下水、または排水管に放出してはならない。
- 有害な熱分解生成物 : 特にデータは無い。



## 5. 火災時の措置

- 特有の消火方法** : 火災が発生したら、すみやかに火災現場から人員を退避させ現場を隔離する。人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。危険でなければ、火災現場から容器を移動させる。ウォーターズプレーを使用して火気にさらされた容器を冷温に保つ。
- 消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置** : 消火を行う者は適切な保護器具と、陽圧モードで動作するフルフェイス部分を備えた自給式の呼吸器具を装着しなければならない。

## 6. 漏出時の措置

### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- 非緊急時対応要員について** : 人的リスクを伴うような行動、または適切な訓練を受けていない行動は行ってはならない。周辺地域の人々を避難させる。関係者以外ならびに保護用具を着用していない作業員の入室を禁じる。漏出した物質に触れたり、その上を歩いたりしてはならない。全ての発火源を遮断する。危険地域には、発火信号、煙草、火焰機器を持ち込まない。粉塵の吸入を避ける。適切な個人保護装置を着用する。
- 緊急時対応要員について** : 流出分の取り扱いに専用衣類が必要な場合には、適切および不適切な物質に関するセクション8に記載の情報に注意しなければならない。「緊急時要員以外の人員用」の情報も参照。

### 環境に対する注意事項

- : 漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。製品が環境汚染(排水、水路、土壌または大気)を起したときは、関係する行政当局に報告する。水質汚染物質である。大量に放出されると環境に対して有害である可能性がある。

### 封じ込め及び浄化の方法及び機材

- 少量に流出した場合** : 漏出区域から容器を移動する。火花を発生しない工具及び防爆型の装置を使用する。物質を吸い取るか拭き取り、ラベル表示した廃棄容器に收容する。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。漏出物を不活性物質(例えば乾燥した砂や土)で吸い取り、化学物質廃棄物容器に收容する。
- 大量に流出した場合** : 漏出区域から容器を移動する。火花を発生しない工具及び防爆型の装置を使用する。放出現場には風上から近づくこと。下水溝、水路、地下室または密閉された場所への侵入を防止する。物質を吸い取るか拭き取り、ラベル表示した廃棄容器に收容する。粉塵状態になるのを避け、風による散乱を防止する。許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処分する。注意: 緊急時連絡情報については第1章を、廃棄処理については第13章を参照すること。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

- 安全取扱注意事項** : 適切な個人保護具を使用すること(セクション8を参照)。摂取してはならない。眼、皮膚および衣類に接触しないようにする。粉塵の吸入を避ける。環境への放出を避けること。取り扱い時に粉塵の生成を避け、着火の原因となり得るものすべて(火花または火炎)を避ける。粉塵の貯留を防止する。換気が十分な場所でのみ使用する。換気が不十分な場合は適切な呼吸用保護具を着用する。使用しないときは元の容器又は適合素材で作られた認可済みの代替容器に入れ、密閉して保存する。電気機器および照明器具は、熱せられた表面、火花、その他の引火源に粉塵が接触しないよう、適切な基準に合わせて防護されていなければならない。静電気防止対策を講じる。火災や爆発を防止するため、容器を接地して運搬中の静電気を放電させると共に、物質を移し換える前に容器と用具を電氣的に接続する。容器が空でも製品が残存し危険有害性があることがある。容器を再利用してはならない。
- 衛生対策** : 本物質の取扱い、保管、作業を行う場所での飲食および喫煙は厳禁。作業者は飲食、喫煙の前に手を洗うこと。飲食区域に入る前に汚染した衣類と保護具を脱ぐこと。同様にセクション8の衛生措置に関する追加情報も参照。

### 保管

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 安全な保管条件

- : 現地の法規制に従って保管する。隔離され認定された場所に貯蔵する。元の容器に入れ、換気の良い乾燥した冷所で直射日光を避け、混合禁止物質(セクション10を参照)および飲食物から離して保管する。あらゆる発火源を除去する。酸化性物質に近づけない。使用直前まで、容器は固く閉め封印して保管する。いったん開けた容器は入念に再密閉し、漏出を防ぐため直立させて保管する。ラベルのない容器に保管してはならない。環境汚染を避けるために適切な容器を使用する。非相溶性材料については取扱いまたは使用の前にセクション10を参照のこと。

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 設備対策

- : 換気が十分な場所でのみ使用する。ユーザーの作業により粉塵、ヒューム、ガス、蒸気またはミストが発生する場合は、作業行程の囲い込み、局所的排気通風装置あるいはその他の技術的制御により、作業者の空中に浮遊している汚染物質への暴露を全ての推奨値あるいは法定限度以下に保つこと。ガス、蒸気あるいは塵埃の濃度を暴露限界以下に保つためには技術的な管理も必要となる。防爆型換気装置を使用する。

### ばく露限界

化学名又は一般名	ばく露限界値
✕タクリル酸メチル	日本産業衛生学会(日本、9/2022)。皮膚感作物質。吸引感作物質。 OEL-M: 8.3 mg/m <sup>3</sup> 8時間。
過酸化ジベンゾイル	日本産業衛生学会(日本、9/2022)。皮膚感作物質。

### 生物学的暴露指数

認知済みのものは無し。

## 保護具

### 呼吸用保護具

- : 危険性とばく露の可能性に基づき、適切な基準または認証を満たすマスクを選択すること。マスクは、呼吸保護プログラムに従って使用し、適切な付け心地、トレーニング、および使用上のその他の側面を確実にすること。推奨: 粉塵フィルタ: P3

### 手の保護具

- : リスク評価によって必要とされるときは、化学製品の取り扱いの際、承認された基準に合格した耐化学品性で不浸透性の手袋を常に着用する。手袋製造業者により特定されたパラメータを考慮して、手袋の使用中に手袋がまだ保護性を維持しているかを確認すること。あらゆる手袋の材料は製造業者が異なれば透過時間も異なる可能性があることに注意する必要がある。いくつかの物質から成る混合物の場合には、手袋の保護時間を正確に推定することはできない。推奨: ニトリル手袋。あらゆる手袋の材料は製造業者が異なれば透過時間も異なる可能性があることに注意する必要がある。

### 眼、顔面の保護具

- : リスク評価によって必要とされるときは、液体の飛まつ、ミスト、ガスあるいは塵埃への暴露をさけるため、承認された基準に合格した安全眼鏡を着用する。接触の可能性がある場合、評価によってより高次の保護が指摘されている場合を除いて次の保護具を着用しなければならない: 側方シールド付の保護眼鏡。作業条件により高濃度の粉塵が発生する場合は、粉塵用ゴーグルを着用する。

### 皮膚及び身体の保護具

- : 作業者の身体保護衣は、行う作業の内容および関連するリスクに基づいて選択しなければならない。さらにこの製品を取り扱う前に専門家の承認を受けなければならない。  
この製品を取り扱う前に、行う作業とそれに付随するリスクに基づき適切な履物および何らかの追加的な皮膚保護具を選択し、専門家の認可を受けなければならない。



## 9. 物理的及び化学的性質

特に明記されていない限り、性質の測定条件はすべて、標準の温度と圧力である。

### 外観

物理状態	: 固体
色	: 白。
臭い	: 特異臭。
臭いのしきい値	: 情報なし。
pH	: 情報なし。
融点/凝固点	: 150 から 230°C (302 から 446°F)
沸点又は初留点及び沸点範囲	: 情報なし。
引火点	: 該当しない
蒸発速度	: 情報なし。
可燃性	: 情報なし。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	: 該当しない
蒸気圧	: 該当しない
相対ガス密度	: 該当しない
相対密度	: 1.18
溶解度	:

メディア	結果
水	不溶

水混和性	: 該当せず。
n-オクタノール/水分配係数	: 該当しない

自然発火点	: 該当しない
分解温度	: 情報なし。
粘度	: 該当しない
粒子特性	
中央粒径値	: 情報なし。

### その他のデータ

物理化学的コメント	: 揮発性有機化合物(VOC)含有量 < 10 g/l (算出値)
-----------	-----------------------------------

## 10. 安定性及び反応性

反応性	: この製品またはその成分に関しては、反応性に関する利用可能な具体的試験データはない。
-----	---

化学的安定性	: 製品は安定である。
--------	-------------

危険有害反応可能性	: 通常の貯蔵および使用条件下では、有害な反応は起こらない。 通常の保管および使用条件の下では、有害な重合は起こらない。
-----------	---

避けるべき条件	: 取り扱い時に粉塵の生成を避け、着火の原因となり得るものすべて(火花または火炎)を避ける。 静電気防止対策を講じる。火災や爆発を防止するため、容器を接地して運搬中の静電気を放電させると共に、物質を移し換える前に容器と用具を電氣的に接続する。粉塵の貯留を防止する。
---------	---





## 10. 安定性及び反応性

混触危険物質 : 次の物質と反応性あるいは危険配合性:  
酸化性物質

危険有害な分解生成物 : 通常の保管及び使用条件下では、危険な分解生成物は生成されない。

## 11. 有害性情報

### 急性毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	投与量	ばく露時間
メタクリル酸メチル	LC50 吸入した場合 蒸気 LD50 経皮	ラット ウサギ	29.8 mg/l >5 g/kg	4 時間 -
過酸化ジベンゾイル	LD50 経口 LC50 吸入した場合 微塵および噴霧 LD50 経口	ラット ラット ラット	7872 mg/kg >24.3 mg/l 6400 mg/kg	- 4 時間 -

### 急性毒性の推定

製品 / 成分の名称	経口 (mg/kg)	経皮 (mg/kg)	吸入 (気体) (ppm)	吸入 (蒸気) (mg/l)	吸入 (粉じん/ミスト) (mg/l)
メタクリル酸メチル	7872	N/A	N/A	11	N/A
過酸化ジベンゾイル	6400	N/A	N/A	N/A	N/A

結論/要約 : 情報なし。

### 刺激性/腐食性

製品 / 成分の名称	結果	種類	スコア	ばく露時間	観察
過酸化ジベンゾイル	眼 - 軽度の刺激	ウサギ	-	24 時間 500 mg	-

### 呼吸器感作/皮膚感作

情報なし。

### 生殖細胞変異原性

結論/要約 : 情報なし。

### 発がん性

結論/要約 : 情報なし。

### 生殖毒性

結論/要約 : 情報なし。

### 特定標的臓器毒性(単回ばく露)

名称	カテゴリー	暴露経路	標的器官
メタクリル酸メチル	区分1 区分3	-	呼吸器 麻酔作用
過酸化ジベンゾイル	区分3	-	気道刺激性

### 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

## 11. 有害性情報

名称	カテゴリー	暴露経路	標的器官
メタクリル酸メチル	区分1	-	神経系、呼吸器

### 誤えん有害性

情報なし。

可能性のある暴露経路についての情報 : 予想される侵入経路: 経口、経皮、吸入した場合、眼。

## 12. 環境影響情報

### 生態毒性

製品 / 成分の名称	結果	種類	ばく露時間
メタクリル酸メチル	急性 LC50 130000 µg/l 真水	魚類 - Pimephales promelas - 成体	96 時間

結論/要約 : 情報なし。

### 残留性・分解性

製品 / 成分の名称	テスト	結果	投与量	植種源
過酸化ジベンゾイル	OECD 301D Ready Biodegradability - Closed Bottle Test	71 含有量(%) - 容易 - 28 日	-	-

結論/要約 : 情報なし。

製品 / 成分の名称	水中における半減期	光分解	生分解性
クラロファスト	-	-	容易ではない
メタクリル酸メチル	-	-	容易
過酸化ジベンゾイル	-	-	容易

### 生体蓄積性

製品 / 成分の名称	LogP <sub>ow</sub>	BCF	可能性
メタクリル酸メチル	1.38	-	低
過酸化ジベンゾイル	3.2	-	低

土壤中の移動性 : 情報なし。

オゾン層への有害性 : 該当しない

他の有害影響 : 重大な作用や危険有害性は知られていない。



### 13. 廃棄上の注意

**廃棄方法** : 廃棄物の発生は避けるか、あるいは可能な限り少なくする必要がある。この製品、製品の溶液およびあらゆる副生成物の処分は、常に環境保護および廃棄物処理に関する法律の定める要求事項、および現地法の定める要求事項に従わなければならない。余剰またはリサイクルできない製品は許可を受けた廃棄物処理業者に依頼して処理する。管轄当局の要件に完全に準拠しない限り、廃棄物を無処理で下水道に流してはならない。不要な包装材料は再利用しなければならない。焼却または埋め立ては、再利用が不可能な場合にのみ検討すべきである。この材料およびその容器は安全な方法で廃棄しなければならない。清掃または洗浄されていない空容器を取り扱う際には注意しなければならない。空の容器や中袋に製品が残留している可能性がある。漏出した物質や流去水の拡散、および土壌、水路、排水溝下水道との接触を回避する。

### 14. 輸送上の注意

	UN	IMDG	IATA
UN番号	規定なし。	Not regulated.	Not regulated.
品名	-	-	-
国連分類 クラス	-	-	-
容器等級	-	-	-
環境有害性	該当せず。	No.	No.

**使用者のための特別な予防措置** : 使用者の施設内での輸送: 直立型の安定した容器に入れて輸送する。本製品の輸送者が事故や漏出の際の対処法を理解していることを確認する。

**IMO機器によるばら積み運搬** : 情報なし。

### 15. 適用法令

**消防法**

カテゴリー	物質名/種類	危険性区分	注意喚起語	指定数量
第二類危険物	引火性固体	II	火気注意	1000 kg

**労働安全衛生法**

名称等を通知すべき危険物及び有害物

化学名又は一般名	含有量(%)	状況	整理番号
メタクリル酸メチル	≤10	該当	557
ジベンゾイルペルオキシド	≤10	該当	282

労働安全衛生法施行令 別表 : 爆発性の物、引火性第一 危険物

**化学物質審査規制法**

非該当





## 15. 適用法令

### 毒物及び劇物取締法

非該当

### 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRTR) – 2023年3月まで

非該当

### 化学物質排出把握管理促進法 – 2023年4月から

非該当

### 日本インベントリ

: 日本インベントリ(化審法既存及び新規公示化学物質): 全ての成分は表示されているかあるいは免除されている。  
日本インベントリ(ISHL): 未確定。

## 16. その他の情報

### 履歴

発行日/改訂版の日付

: 2024/02/22

前作成日

: 2022/12/15

バージョン

: 1.03

作成者

: Sphera Solutions

### 略語の解説

: ATE = 急性毒性推定値

BCF = 生物濃縮係数

GHS = 化学品の分類および表示に関する世界調和システム

IATA = 国際航空輸送協会

IBC = 中型運搬容器

IMDG = 国際海上危険物

LogPow = オクタノール/水の分配係数の対数

MARPOL = 海洋汚染防止条約、1973年の船舶による汚染の防止のための国際条約に関する1978年の議定書。("Marpol" = 海洋汚染)

N/A = データなし

UN= 国際連合

### 分類を行うために使用する手順

分類	由来
水生環境有害性 短期(急性) – 区分3	算出方法

### 参照

: JIS Z 7253:2019

前バージョンから変更された情報を指摘する。

### 注意事項

我々の知る限りにおいて、ここに記載した情報は正確です。しかしながら、上記の供給業者あるいはその子会社のいずれも、ここに記載した情報の正確さあるいは完全性に関していかなる責任も負うものではありません。

製品の適合性については、ご使用各位の責任において決定してください。全ての物質は未知の危険有害性を含んでいる可能性があるため、取り扱いには細心の注意が必要です。ここには特定の危険有害性が記載されていますが、これらが存在する唯一の危険有害性であることが保証されているものではありません。